



「行つてきます、運転手さん」「はい、今日も元気にしてらっしゃい」と、毎朝交わされるあいさつがあります。

バスを利用する方々を無事故で安全に、そして楽しく送迎してくれる運転手の石塚さん。今回はそんな石塚さんにスポットをあて、送迎中のバス内の様子や石塚さんの気配りなどをご紹介します。



あすわ就労支援センターの送迎バスは利用者の方のニーズに応じて、福井駅や各グルーピングホームを周回しています。在宅で、ご家族による送迎が困難な方や、一人での出勤が困難な方にとって、活動先に行くための重要な手段の一つとして活用されています。

またバスに乗つて出勤することで、気持ちの切り替えの場となつて利用者の方もいらっしゃいます。



「発車」「オーライ」、「行くぞ」「オー」と利用者の方と石塚さんの出発のかけ声で毎朝の送迎がスタートしています。この元気なかけ声がないと朝の調子が出ないと石塚さんは言っています。毎日、バスの中は、利用者の方と石塚さんの間で交わされる楽しい世間話で笑顔がいっぱいです。みなさん石塚さんと話すことを楽しみにされているようで、安全運転に配慮しながら、バス内を明るい雰囲気してくれています。



ときには、石塚さんに話を聞いてほしい利用者の方同士で口論になつてしまふこともありますが、そんなときでも一人ひとりの話を丁寧に聞いてくれています。バスの中で交わされる、何気ない会話の一つひとつが、活動へのやる気や作業場に向かう元気につながつているようです。

またバス乗車時、降車時には、一人ひとりの利用者の方と石塚さんがあいさつを交わしている姿も印象的です。

家と活動先をつなぐ架け橋

毎日元気いっぱいのバスの中!





たくさんの気配りと 信頼関係

石塚さんは、利用者の方にとつて作業場や生活担当の職員とは違った存在となっています。作業場では出でこない話題や、ふだん見られない表情がバス内では見ることができます。またバスの中という空間は利用者の方にとってふだんと異なる気持ちになるようで、和気あいあいと気軽に話ができる場と感じている方もいらっしゃいます。

石塚さんには、利用者の方もいらつしやいですが、石塚さんは様子や調子を見ながら、楽しい話題を提供する等の声かけで気分をやわらげてくれています。そんな声かけによって、出勤を拒否していた利用者の方も、明るく前向きな表情に変わり、気持ちの切り替えができた方もいらっしゃいました。

石塚さんに利用者の方とのかかわりで留意している点を聞いたところ「とにかく聴いて聞く、そして認める。ときにはユーモアを交えて楽しい話をする」とのことでした。



また石塚さんの役割は、バスの運転だけではありません。生活介護事業所の生活支援員として、利用者の方と一緒に軽作業を行ったり、安全に過ごしていただくために、他の職員と共に状況の把握を行つたりしています。

さらに、利用者の方がグループホームから出てこられるのを待つて花壇のお手入れやゴミ拾いをし

たり、また雨天時の乗り降りの際に水たまりにはまらないようバスの停車位置に気を配つたりしています。

何でも話を聞いてくれて、面白い人です。家でのことなども教えてくれて、色々な話が聞けて楽しいです。



優しい人です。話しやすいのでつい、たくさんおしゃべりしたくなります。



利用者の方の声

このように利用者の方からの信頼も厚く、石塚さんとの会話を楽しみにされてる利用者の方が多いいる利用者の方が多いからです。日々のかかわりそのものが別なことではありません。何か：それは決して特別なことではありません。日々のかかわりそのものが「支援」であり「共助」だと考えます。そして、その積み重ねが信頼関係の構築となり、「一人ひとりの『元気』（生きがい）につながります。」

この会話を大切にされています。このようにお互いの信頼関係が成り立っているからこそ、利用者の方が安心してバスに乗ることができ、また運転にもつながっています。

「お客様を安全に目的地にお届けする」一般的に運転手の業務はそれに尽きます。しかし、当事業所のバスにはさまざまな利用者の方が、いろいろな思い、ときには消化しきれない悩みを抱えながら活動先に向かおうと乗車して来られます。そんなとき、石塚さんの優しいかけ声が背中を押してくれます。「支援」とは何か：それは決して特別なことではありません。何かと希薄になりがちな人間関係ですが、石塚さんの姿をかかわりの原点として、利用者の方と共に歩みたいと思っています。

あすわ就労支援センター
課長 恵美 浄文